

## 高姫集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成21年 7月 7日  
 修正日：平成 年 月 日

市町村名	南部町	組織名	高姫アグリユニオン
1 地区の範囲 西伯郡南部町 高姫地区			
2 地区の概要			
水田面積	26.049 ha		
主な水田栽培作目	水稻、そば、里芋		
農家数	35 戸		
認定農業者数	0 経営体		
地域水田農業ビジョンの担い手数	0 経営体		
3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。） ・設立時期（規約等の制定日）【平成20年 4月 1日】			
	組織形態（該当形態に ）	加入農家数	
【現状】前年度実績 （20年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未組織</li> <li>・ <span style="border: 1px solid black;">作業受託型</span></li> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	9 戸	
【目標】事業開始翌年度 （22年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ <span style="border: 1px solid black;">作業受託型</span></li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	18 戸	
4 集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
項 目	【現状】	【目標】	
集 積 面 積	8.215 ha	12.896 ha	
うち経営及び作業受託	8.215 ha	12.896 ha	
対象水田面積 A	17.599 ha	18.324 ha	
集 積 率 /A	46.67 %	70.37 %	
うち経営及び作業受託 /A	46.67 %	70.37 %	
<p>注1) の集積率の目標は採択要件。50%超が必要。</p> <p>2) の作業受託による集積率の目標が、50%超の場合は事業費上限10,000千円（新設組織の場合は事業費上限20,000千円）、50%以下の場合は事業費上限5,000千円。</p> <p>3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。</p>			

I 集落営農に対する基本方針(自由に記載)

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

< 現状及び課題 >

高姫集落は、南部町賀野地区の南西部に位置し、水田耕作面積17.6ha、丘陵地に果樹(柿)の栽培を営む実り豊かな集落であります。

当集落においては、早期に圃場整備事業により農地や農道の整備を行い、農地の効率的な利用を模索する中、水稻の生産調整にも積極的に取り組んで参りました。

しかし、近年は農業従事者の高齢化、米価の継続的な下落等により、各個人の責任で行われるはずの水田の維持管理作業、用水路・農道の維持管理作業、獣害防止作業、病虫害防除作業などの管理が出来なくなりつつあります。

既に、集落の農家のうち4戸に農業後継者がなく、その圃場を高姫アグリユニオンが耕作しています。今後さらに、農業後継者がいない農家が出てくることが予想され、耕作放棄地の発生が懸念されます。

高姫アグリユニオンを設立する以前は、トラクター、田植え機等の農業機械の共同利用を行ってきました。

高姫アグリユニオンが所有するトラクターは、1台で使用頻度が高く、年々修理費が多く掛かるようになってきました。また、作業労力の軽減と効率的な農業を図るために各種作業機械の導入を考えています。

今後は、大型農業機械の導入により、担い手による作業受託の拡大などを通じて生産性の向上と経費の削減に努め、地域の農地を守り、高姫アグリユニオンが中心となり、効率的な生産体制を整備し営農意欲の高揚と地域の活性化に努めます。

< 将来のビジョン >

耕作放棄地の発生を予防し、将来にわたって継続的な農業生産活動を可能にするためまた、当集落の水田農家が今後も不安を抱くことなく地域で生活し、農業に携わっていくために、高姫アグリユニオンが水田の主要農業機械を購入し、作業受託を行い、効率的・安定的な農業を実現します。

農業の担い手となる農業者の育成は、活動組織(高姫アグリユニオン)の体制強化に繋がることから、定年帰農者等を担い手に育成し、集落の営農体制の整備を図ります。

水田農作業の機械化・効率化による作業負荷軽減と低コスト化を図ります。

高姫アグリユニオンで水田農作業の受託作業を拡大します。

## 2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

### <現状及び課題>

平成20年度の作付け状況は、水稲約10ha、減反対象等7.6haとなっているが、耕作者の高齢化等により、現状維持が厳しい状況にあります。そのため大型農業機械と各種作業機を導入し、農作業の省力化を図り、耕作放棄地を出さないようにする必要があります。

### <将来のビジョン>

1. 水田農業については、地域で連携を図り水稲、転作作物を計画的に作付けし、安心・安全な農作物の生産に努めます。
2. 水稲以外の作物は、地域の立地条件を生かした産物を育成するとともに、産地づくり事業に基づいた品目栽培（そば・大豆）により、水田の有効利用と地域の活性化を図ります。

## 3 農業用機械施設の効率利用

### <現状及び課題>

当集落の平均水稲経営耕地面積は48.7aで兼業農家が多く、高齢化が進んでおり農業機械投資と農作業の負担が大きく、水田耕作維持が困難になってきています。

低迷する米価の中で、高い農業機械の購入が出来ない。中山間地域のため、水田の溝上げ、大きな畦の草刈作業が体力的にきつく、体に大きな負担が出ています。

高姫アグリユニオンは、平成20年4月に設立しました。トラクター1台、田植え機1台、畦塗り機1台を保有し当集落の水田農業の担い手として活動をしています。しかし、耕作放棄地が増え始め、作業受託も増える中で、保有するトラクターが1台では使用頻度が高く、受託面積の増加に対応できない状況にあります。

### <将来のビジョン>

高齢化等により現状のままでは、当集落の農地、農道・用水路の維持が年々困難になってくることが予測されます。対応策として高姫アグリユニオンが大型トラクター、溝堀機、草刈機を保有し、農作業の受託面積を拡大して作業負荷の軽減と低コストの集落営農を目指します。

作業負担の重い草刈、溝堀等の作業は機械化により作業負荷の軽減につなげます。

高姫アグリユニオンの構成員は、水田と果樹の兼業複合経営が多く、水田作業の負担軽減により、果樹作業の安定した労力が望めます。水田経営と併せて果樹経営の影響も大きく、フルーツの里としての地域農業の振興・活性化につながります。

### <具体的取組>

年々増加している耕作放棄地を農地として維持するために、各種作業の効率化を図ることを目的として、大型トラクター及び各種作業機を導入します。

現在、8.2haを作業受託しているが、新たに9名の組合加入を見込み、4.6haの経営面積の拡大を図ります。

研修会や話し合いを重ねることにより、地域農業の将来性に対する意識の醸成を図ります。

- 4 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】  
 考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）

農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額（円）	導入予定年月	本事業による導入機械に	集積面積
トラクター （中古）	41ps	1台	2,630,000	平成21年8月		9.5ha
ツインモア-	刈幅900mm	1台	970,000	平成21年8月		5.9ha
溝堀機	溝深30cm	1台	560,000	平成21年8月		6.8ha